

小森のニとも園 8月号



令和元年 7.22

去年の記録をみると、7月9日から、急な暑さとなり、日中は33度を始め、夕方になっても気温は下がらず、8月の始めから、35度をえ、予想気温も38度とかでの猛暑となり、いまして、今年の7月は、晴天の日が少なく、雨や曇りの日も多く、ずいぶん違っていますね。特に、うちの繁木に困れた家は、体感も違い、暑さでの熱中症の対応での子ども達の事を思うと、今年は、今のところ、すこしやすくはありましたが、うちの庭での虫達の様子も違うように私は感じています。年々、皮膚がデリケートな子どもさんが多くなっている現代ですが、特に、風で毛がとんだり影響をうけるイラガの幼虫や、の毛虫にも毎年、悩まされていたのですが、今年は、ずっと予防していたものの、今のところいないです。せみも、気候の急変で年々、あふらせみからくませみも増えていると、私がいま頃にはよくかまっていたニイウゼミをよくみかけるようになり、他にも庭での生き物の状況も違って、昔に、一瞬かえっているような(?)感じもしている7月でした。(私的にですが) さて、8月は、急に暑さかやってくるので(約か)

8月は、夏休みもあります。盛りだくさんなカリキラム活動で、小中学生との交流保育も予定しています。

みんなそろって、けがや事故のないように配慮しながら、いろんなあそびを楽しみ、夏の季節を満喫したいです。



梅干しづくり

梅酢がみどりに上って、青梅の塩漬けの作業の成果がみられ、つぼの中をのぞいた瞬間、みんな、大喜びしました。赤じそつみから、赤じそもみ、あぐり作業を4回くり返しての赤じそつけみも、きれいなピンク色にそまり、赤梅酢になりました。

今は、赤じそは、塩もみしてあくぬきにあるのが、普通に出来ていて便利なのですが、うちは、あえて、赤じそ葉つみからしての色出しまで、昔の人の知恵を、自然の力を、子ども達にも伝えたいこともあり、このやり方で、子ども達と今年、おとや、できています。その梅干し作りの保育のわらには、(個人的には、^{前から}からですが)それだけでなく、手を使うこと、集中すること、みんなで協力しあう一つのものを作り上げていくこと、難しいかもしれないけれど、挑戦してみることも、葉っぱを一枚一枚ちぎることにも、葉の形、色をみて、たまには、ついている虫や虫も見つけたら、観察したり...など、指先、目、鼻、耳、触感...と、トータル、脳感性をフルに使うことです。着しく成長発達している子ども達ですし、この幼年期特に大切な根、土台の時期ですのでも... さあ、梅雨あけて土用の晴天になったら、土用干しで、でき上がりです。6月に仕込んで、日にちと手をかけ作った梅干し。令和元年の梅干しは、どんなできごころになるかな。

子ども達の様子。(園児3名)

◎3人になると、なにかとトラブル多しとなる人数ですが、最近はお互いのやりとりもいろいろあります。困窮して意気投合してのあそびの姿も多くなってきています。



◎年長ゆいりは、さすがリーダーとなり、年の数だけ伝えたことを、年少2人にも同じような口調で伝えていきます。そして、年少2人がけんかしたときも、間にはいりやりとりしてあげることもあります。

◎ここの日は、7月のあそび日、之みりへのけんかで、初めて逆転し泣きました。けんかのときは、泣いた子だけじゃなくて、双方の話を聞いて、対応している子ですか。この時も「どうけん？」と聞くと、ここのが自分の思いを語り出しました。ゆいりも、その場にいたので、ここのの話を補足をしてくれて、詳しく私にももう一度、状況を伝えてくれました。

3才児の子が、自分の思いをちゃんと伝えるというのは、難しいと思います。うちでは、3才児年少さんの子も、自分の感じたことや、相手や、たれかに思いを伝えられるようにと、大切に保育に心がけています。

ここのも、この時、しっかりと「話すねかできたのぞ」と、ちゃんと先生にここの気持ちを話せたね、話せたね、おじいと思おうよ、という、涙をふき、おじきりかいたのをでした。そして、之みりに優しい声をかけていたのを聞いた。私の対応が伝わって、ここのは気持ちをわかってもらえて、それによっておたごもかかになり、之みりに対して、優しく声をかけている様子を見て、子ども達にもスーと、伝わった。

子ども達も、うけて、ていれいているので、嬉しいですね。保育も、子ども同士であらうと、子どもと私ら大人との関係であらうと、「お互い、くみり合いが大切だね。」

◎之みりは、チョコ苦手なトートを、自分なりにやっつ挑戦し、あそび時、私の目の前に立ち、「おじい、トートたべろ、おいしい〜」と、食べてほしいまで、私の前からはずれず、口の中をみせて、アピールしました。「おじい!!!」ときき、とすと、これもかなり自信で、「トートたべたもんか!!」と、それから、毎日、言っていました。

◎あそび日のこと〜

3人に、重部じいちゃん(お父)が、昼食を食べているところについて、じいちゃん、おじいちゃん、おはなしたところ、子ども達の会話をきいてくれた。「年よりだけん、全部たべきら、ちゃん。」とか、「おいしい?」ときいておじいちゃんに子ども達に、「じいちゃんとのふれあいの時間も自然にあつておはな絵本をそれぞれ選んで、「じいちゃんさん〜」という、絵本おみせかせを、たのんだり、じいちゃんあめを食べたり、口の中をあめをみせてもらい、「じいちゃん、あめ、3こたべたらすよ」とおはな報告してくれたり、「じいちゃん、おはな〜」と、じいちゃんおつかいして。88才の重部じいちゃん(父)も、しっかりと、保育のスタッフとして、活躍していただいております。子ども達ともいい関係性です〜



あずかりの小学生の様子

小学生は、現在、主に2名(2年生と5年生)が下校後から来てこれにあずかっています。(子ども達の間ではあずかりの会) (11月2日)

小学生にも、在園の時の経験をまた再体験する事で、思いや力が積み重なったり、小学生時代も、今現代は、特に手を使う事も、自分で考え挑戦したいの体験も、とても必要で大切な事です。今は思いやりの心、ひきつき、いろいろな活動をしてもらっています。いろいろなあずかりの他に、

例えば、おやつを作って共に食べた。園児の力仲間のあずかりの二うじつぶしを手伝ってもらって、今旬のヤリカをさばいて、(内臓、骨、イカスミ袋、目玉、口をはずして)、生地も作って、2人で協力して、作ってもらい、わからないところは、私が手助けして、たこやきを作ったり、色々なおやばりを作ったり、色々なおやばりを作る。夏休みには子どもで、みんなでおやばりやおやつ作りも共に作ってもらっています。

小学生二人も、いろいろな事に挑戦し、失敗をくり返しながらも、何度もチャレンジして達成し、また自信につなげていく。色々な事も多々あります。

こうやって小学生になっても、共にさせて、活動でき、感動をもらったりするのはありがたい事です。

子ども達も私も、お互い、気をゆるしあい、本音で向き合って、それぞれ自分を出し、個性を出しつつも、適度な距離感もあり、ある時は気遣い、ある時は、意見や思いを主張し、聞いたり、深いつき合いになってます。身内感覚になるね、さあ



園児3名のこれまでの克服と、7月にできたこと

ゆい、水が苦手だったのが顔をとおろして思いきりつけることができた。園児も、体を洗う流す時など思いきり顔に水をかけると、ちやになりにました。

この 苦手な食べ物が多かったのが、いろいろな経験をすことで、自信もつきたのがあるか、いくつもの克服。いかに細かいスキップもできるようにもなりました。ゆい同様水が苦手でしたが、自分でかけるといふのは、園児の1枚目にもかいてくれたのが、トホホ大の苦手でしたが、食べられました。弁当箱を包むのは、うらほ、手をかけておもうゆいにかきで、からあずかりに挑戦してもらっています。克服しました。できるようになりました。

一人一人それぞれが、たこさんの経験を日々やってすごしていく中で、いくつもの事に挑戦し、たこさん、とまごさんにながらも、できるようになりました。何事も挑戦し、とまごさんがおなごもみんなのこぼれかけの一つであるのですが、挑戦し、失敗成功をくり返し、子ども達は、その端その端で何かを感じ、そして、次につなげていく。これこそ、と思っています。どんなにかっこいい子ども、どんなにかっこいい挑戦にみてる、さまざまなおもいを経験しながら、達成感を味わう事で、自信になり、その子に合った量の力、後々には、大きな力になり、その子にあらわれない。私は、思っています。子ども達の可能性はいっぱいある。